

# 1年道徳 「ジャッジメント」

「スペシャル道徳」シリーズ・第3弾「ジャッジメント」が、3月2日（火）、神町中学校第1学年を対象に行われた。犯罪の増加に手を焼く未来の日本では、「復讐法（ふくしゅうほう）」が実施されていた。「復讐法」を選択した遺族は、自分の手で同じ方法で相手を殺すことができるというものである。あなたはこの「復讐法」に賛成ですか、反対ですか。もしいじめられたら、いじめ返すのはありますか？



僕は復讐法には反対です。理由は、復讐をした人も加害者と同じ罪になると思うからです。でも、自分がその場面になったらどうするかは分かりません。話を聞いて、人間は残酷だと思いました。人間がつくった便利な道具が凶器となり、人が殺されていく。（東海林駿介）

私は復讐法に賛成です。大切な人が殺されているのに、加害者はいつかは出所して生きていく。許されないと思うし、何もできないのは辛いと思うからです。復讐したとしても大切な人は戻ってこないし完全にすっきりするわけではないけど、殺された人の気持ちを知られてもらいたいと思いました。（神保優奈）

校長先生の話聞いて復讐法には賛成でしたが、他の人の意見を聞いたり本の内容を聞いて反対になりました。大切な人を殺された家族は復讐法を選ぶかもしれませんが、犯罪者を自分の手で殺した被害者（の遺族）も、人を殺したという罪を背負いながら生きなければいけません。（加害者には）罪を償ってもらったほうがよいと思いました。（廣岡橙葉）

「罪を憎んで人を憎まず」という言葉がありますが、それができるのは一部の人ではないでしょうか。殺されたら殺したい、結局は負の連鎖になります。何もできなければ納得できず、復讐すれば自分も復讐されるかもしれない。僕には解決の方法はわかりません。復讐法が許されるのなら、人類は滅ぶかもしれません。憎しみだけでは何も生まれない。復讐せずに、前に向かって進んでいけるようにしていくことが大切だと思う。（花輪恵永）



今日の授業は、けっこう考えさせられました。復讐しても、誰もいい気持ちにならないと思います。もし自分だったら、復讐したい気持ちを別の力に変えて全力で生きていきたい。殺された人の分も一生懸命生きていきたいと思いました。（森 悠介）